

## 第24回参議院選挙結果を踏まえてのJR連合コメント

2016年7月11日  
日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

7月10日に投開票が行われた第24回参議院選挙においてご支援いただいた組合員や家族をはじめとする関係各位に御礼申し上げるとともに、推薦候補の必勝にむけてまさしく献身的に奮闘されたすべての組合員に対して、心から感謝を申し上げます。

今回の選挙の結果、自民党が単独過半数とはならなかったものの定数242議席の半数121議席となった。また、自民・公明・おおさか維新のいわゆる改憲勢力は、非改選議員を含めて憲法改正案の発議に必要な議員定数の3分の2を上回る165議席となった。

一方、民進党は、比例区で前回の7議席を上回る11議席を獲得したものの、32の1人区をはじめとする選挙区では苦戦し、32議席にとどまった。安保法案をめぐる国会論戦や政治資金の問題など政治に対する関心の高まりとともに、18歳への選挙権年齢引き下げもあったものの、一方で与野党の対立軸が不明瞭であったこともあり、投票率は前回より2ポイント程度上回る54%台後半にとどまる見込みとなった。政治への関心の高まりが投票行動に十分に繋がっていないことについては、今一度、国民一人ひとりが、厳粛に受け止めるべきである。

民進党には、野党第一党として健全な野党勢力となるべく国民から寄せられた多くの期待を重く受け止め、まじめに働く者のための政治の早期実現にむけて、なお一層邁進されることを期待したい。

JR連合は、比例区6名と選挙区8名の最重点・重点支援候補者を推薦し、全員当選にむけて取り組んできた。厳しい選挙戦を余儀なくされた各推薦候補者は、堂々と選挙戦を闘い抜き、比例区においては小林正夫氏（電力総連）、矢田稚子氏（電機連合）、川合孝典氏（UAゼンセン）、難波奨二氏（JP労組）の4名が、選挙区においては、福山哲郎氏（京都）、柳田稔氏（広島）、蓮舫氏（東京）、小西洋之氏（千葉）の4名がそれぞれ激戦を制した。今後、国政の場でその実力を縦横に発揮されることを期待したい。

しかしながら、比例区の藤川慎一氏（JAM）、森屋隆氏（私鉄総連）の2名と、選挙区の林久美子氏（滋賀）、前川清成氏（奈良）、水岡俊一氏（兵庫）の3名が惜敗することとなった。また、大阪選挙区の「JR連合国会議員懇談会」副会長の尾立源幸氏については、最重点支援候補として全力で取り組んだものの、残念ながら当選を果たすことができなかった。

JR連合は、今回の選挙結果を真摯に受け止めるとともに、低投票率については政治活動の意義の浸透やさらなる政治への参画意識の醸成などの今後の取り組みにむけて、引き続き組織内において議論を深めることとする。

イギリスのEU離脱問題の影響もあり、円高株安となって経済状況が不透明さを増す中、先送りされたTPP関連法案や雇用法制に関する国会審議とともに、憲法改正の発議などの動向も注視が必要であり、衆議院解散・総選挙についても予断を許さない状況である。

JR連合は、連合に集う構成組織の責任ある一員として、また、JRの最大産別として、一層の団結強化を図り、次期選挙の必勝、そして政策・制度実現と民主化闘争勝利をはじめとする諸活動の完遂にむけて一丸となって取り組むこととする。

以上